

雲の上のまち



広報

ゆめはら



集落活動センター（四万川）開所式典 テープカットの様子（3月29日） (関連記事は15ページに掲載)



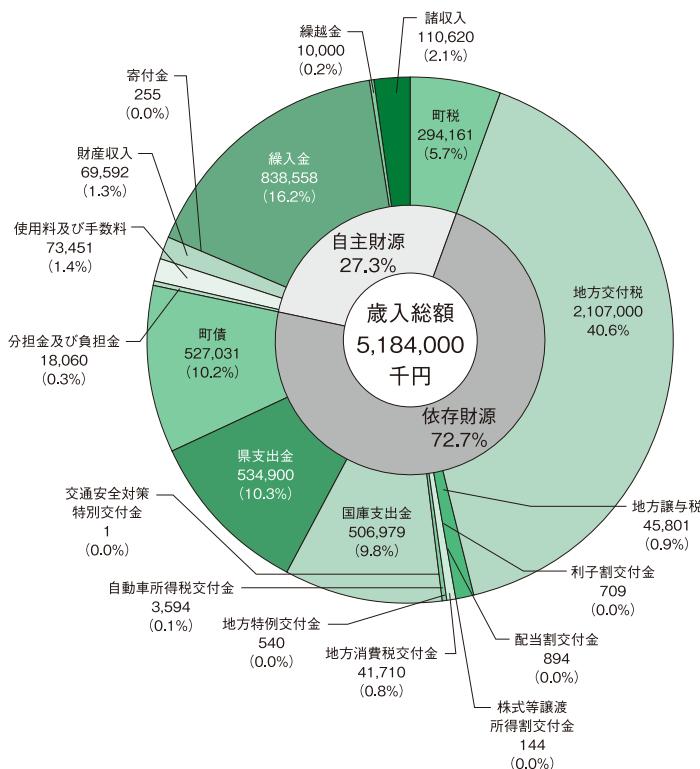
- 世帯数／1,767 (3月初)
1,760 (4月初)
- 人 口／3,709 (3月初)
3,690 (4月初)
- 出生… 1 ○死亡… 7
- 転 入… 17 ○転出等… 30

平成26年度 一般会計予算

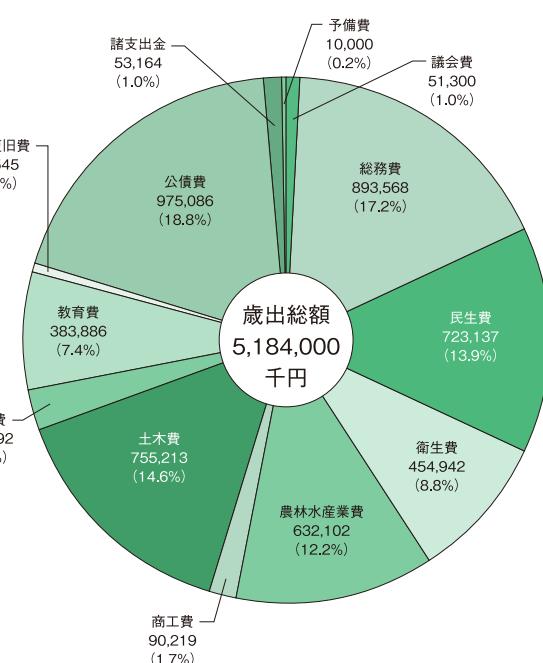
51億8,400万円

梼原町 一般会計当初予算の状況

歳入の状況



歳出の状況



一世帯当たり、一人当たりの予算状況

会 計 名	予算額(千円)	一世帯当たり予算額(円)	一人当たり予算額(円)
一般会計	5,184,000	2,930,469	1,301,205
松原診療所特別会計	19,200	10,854	4,819
四万川診療所特別会計	9,600	5,427	2,410
国民健康保険特別会計	570,000	322,216	143,072
後期高齢者医療特別会計	58,000	32,787	14,558
介護保険事業特別会計	528,000	298,474	132,530
簡易水道事業特別会計	422,800	239,005	106,124
農業集落排水事業特別会計	38,500	21,764	9,664
下水道事業特別会計	100,000	56,529	25,100
風ぐるま事業特別会計	56,300	31,826	14,132
病院事業会計	601,900	340,249	151,079
計	7,588,300	4,289,599	1,904,694



梼原町の自治経営の基本

自治の基本は「自立」であります。 「自立」ということの意味は、

意味も、金を儲ける活動のことではなく、経営の本質は、社会に

その価値とは、財貨のみのことではなく、人が社会の役に立っていると思う物やサービス

第314回梼原町3月定例議会が3月7日から13日まで開催されました。矢野町長は平成26年度に臨み次のように施政方針を述べました。

平成26年に臨む施政方針

自分で完結することではなく、周囲と様々な関係を築き、資金の提供を受け、それに見合う価値を生み出している状態のこと

であります。

本町も、その第一歩として行政改革大綱を変更し、学習から始めており、時間もかかりますが、着実に歩を進め役場を担う人材を育成し、梼原町を未来永劫に引き継いでいかなければなりません。

そのため、私は、千百年にわたり整備されてまいりました地域資源と自然環境を活かし、共生と循環の考え方で、2020年に向けて梼原町総合振興計画に定めた「健康・教育・環境・産業・文化・くらし」をキーワードに、六つの社会を目指してまいります。

また、縦横に走る主要地方道、県道、町道などの生活道の整備が進み、各家の庭先から車を利用できる基盤整備が充実してまいりました。

加えて、全世帯に引き込んでいる光ファイバー網の活用など不利な条件を一気に解消する基盤も充実してまいりました。

命の水の確保については、本

何が起こるかわからない社会の変化の中で、本町を取り巻く環境も大きく変わつてまいりました。 「地勢」の面からみれば、命の道については、本町を南北に

大きく飛躍してきた梼原社会

年度で要望の全てを完成いたしました。この完成により、合併浄化槽設置への補助を行いトイレ、炊事場、お風呂等の水回りの近代化及び南海トラフ大地震等に対する住宅の調査、設計、改修並びに町独自の住宅裏のが

役立つ価値を生み出し、社会から支持されることで生き残り発展する活動のことであります。自治体も行政も、この本来の意味の「経営」を考える団体、組織に変わら必要があり、危機感を持った自治体が増しておりま

す。また、長年の懸案でありました主要地方道中平梼原線佐渡から国道43号鷹取山の間を町道佐渡鷹取線として、平成25年度より調査をはじめ、いよいよ町中

心地より松原まで所要時間20分

距離となり、人、物、情報の流れが大きく変わり、交流人口が拡大しております。

また、東西に走る国道197号の難所、高野から神在居区間が着工いたしました。

また、縦横に走る主要地方道、県道、町道などの生活道の整備が進み、各家の庭先から車を利用できる基盤整備が充実してまいりました。

申上げます。

本町も、少子化、過疎化が進み人口は4千人を割り、高齢化率も40%を超えてまいりました。しかし、そうした状況の中でも、本町の「環境、健康、教育、くらし」などの、安心して生きる取り組みに賛同する方々の移住も増しているところであります。

今後は、本町の最大の資源である、地球規模で価値が見直されている自然・森林を活かした再生エネルギーの自給率や食料に、交通・通信機能・移住定住のさらなる条件整備や地域資源を活かす仕組みづくりに取り組んでまいります。

次に、「人口」の面について申し上げます。

伝統文化の継承や産業の担い手、人と人の絆の大切さを持つ梼原人など、人材の育成が急務となっています。

「産業経済」分野では、命の道の整備や条件不利地域の解消に向け公共事業に依存してきた

ところでありますが、これに加えて農業・畜産・林業を組み合った小規模な「複合経営」で生活を営んでまいりました。地勢上の不利な条件と合わせて、零細農林家がほとんどあります。命の道をはじめ地勢条件も大きく変わってきており、自らが環境に対応できる考え方、振る舞いに変わらうとしているところであります。

「教育文化面」では、「保幼小中高一貫教育」を目指して、「梼原町一貫教育支援センター」を充実し、保護者、教員、教育委員会が常に問題と目的を共有し議論する仕組みをつくり、自信あふれる梼原人を育てるための行動が今必要となつております。

国政は、自由民主党・公明党的連立政権となり1年が経過するなかで、昨年の参議院議員選挙におきましては、自由民主党が躍進し衆議院とのねじれ状態が解消されました。そうした中で、国・地方を合わせた借金は、1千兆円を超え、過去最大を更新するなかで、本年4月から消費税が5%から

国・県の動向

8%に引き上げられることに合わせ、低所得者を対象に臨時福祉給付金として市町村民税非課税者に対し1人当たり1万円、年金受給者等には1万5千円、また、臨時福祉給付金対象者等以外の児童手当受給者に対し、対象児童1人当たり1万円の子育て世帯臨時特例給付金が1回限り支給されることになつておられます。

また、自動車税、法人住民税、地方交付税等の見直しや圧縮などにより、地方の財政運営は、より厳しさを増す状況であります。

そうした中で、2月6日には25年度大型補正予算が成立しました。また、2月28日には、平成26年度一般会計予算総額95兆8823億円が衆議院で可決され、年度内に成立することが確定いたしました。

一般会計の歳出総額は過去最大規模となつており、社会保障費が初めて30兆円を突破するなかで、公共事業費や防衛費などを歳出増とし「デフレ脱却、経済再生、財政健全化の好循環実現の正念場」と位置付けておりますが、しかし、本町の財源を大きく左右する地方交付税は2

上乗せ分も昨年より約4割も減らすことになつております。

一方、県政は「課題解決先進県」を目指し、「飛躍への挑戦」に一層力を入れて取り組み、中山間地域対策を加えた七つの重点施策「産業振興計画」「日本一の健康長寿県構想」「教育改革」「南海地震対策」「インフラ整備の促進」「中山間地域対策」「少子化対策の強化と女性の活躍の場拡大」を推進していくことをとどしております。

南海トラフ巨大地震対策の大幅な増、人財誘致促進、高知家プロモーション強化など産業振興計画関連などで、平成26年度一般会計は前年度比1.6%増の4527億円で、6年連続の前年度比プラスを計上されております。

また、東日本大震災以降、世界で、全国各地で地震や集中豪雨、今までにならない積雪による孤立化など、何が起こるかわからない環境となり、危機管理体制の整備が急がれております。

さらに、TPP交渉、憲法問題、原子力発電所再稼働問題を含むエネルギー問題、社会保障問題など、この日本の形を決め

ます。

本町の予算は、こうした国、県の動向を踏まえ、本町の課題解決に向けて、国・県への依存

むしろ希望を持つ、明るく笑顔で暮らせる社会「福祉の町」を目指してまいります。

その柱として、本年4月1日より梼原町社会福祉協議会を法

人化しスタートいたします。

担当内容は、短期・中期・長期計画を策定し、各種福祉団体の指導や連携、行政が担えない福祉事務などはもとより、梼原独自に順次六つの区担当のコ

ディネーターや保健師等を配置し、町民の総合相談窓口として不安の解消を図る組織として期待しているところであります。

また、在宅介護の充実を図りながら、いつでも気軽に入退所できる小規模多機能的な梼原ならではの福祉施設の整備に向けて検討してまいります。

○新しい「福祉のまちづくり」のスタート



また、高齢者の移動手段の充実に向けて「ゆすはらふつとわいく推進協議会」を中心、民間企業やNPO法人「絆」、集落活動センターとともに、住民のニーズに応えるサービスの充実に努めてまいります。そして、行政、病院、民間の社会福祉法人、新しい社会福祉協議会、町民が総合的に連携できる仕組みをつくりながら、予防型社会を目指してまいります。



また、「健康文化の里づくり推進員」を中心に「自分の健康は自分で守る」を合言葉に、健康づくりに取り組んでまいりましたが、各種事業の計画策定の年にあたり、少子高齢化の中で樋原病院を中心に四万川・松原

原点に返り、推進員の活動の在り方について考え検討する1年にするとともに、新しい「樋原の福祉元年」として宣言するためシンポジウムを開催し、第6期高齢者福祉計画と介護保険事業計画を策定し、町内で目的を共有し支え合いの仕組みをつくるスタートにしたいと考えております。

○地域医療体制の充実

医師の確保につきましては、高知県へき地医療協議会が主体となり自治医科大学卒業生を中心取り組んでまいりましたが、近年、協議会を脱会していく医師が多くなり県内で調整の中、平成26年度は1名減の4名体制の予定であります。高知県や県内の医療機関との連携による代診医の確保を図りながら、町民の皆様にご迷惑をおかけしない診療体系で取り組むとともに、医療スタッフの確保にかけて取り組んでまいります。

○介護保険事業

平成27年度開始の第6期介護保険事業の計画づくりの年であり在宅介護の重要な役割の一つの「住まい」の充実を図りながら、介護従事者の育成に努め分担作業により、「予防重視・在宅重視」のサービスが提供できる仕組みづくりに取り組んでまいります。

また、松原診療所においては、宜保医師も所長として継続して勤務していただくこととなり、昨年導入しました電子カルテを活かし、町民の命を守るために樋原病院を中心に四万川・松原

もに、樋原歯科診療所及び樋原町社会福祉協議会との連携や地区座談会を開催しながら、医療活動の充実と予防に取り組んでまいります。

原点に返り、推進員の活動の在り方について考え検討する1年にするとともに、新しい「樋原の福祉元年」として宣言するためシンポジウムを開催し、第6期高齢者福祉計画と介護保険事業計画を策定し、町内で目的を共有し支え合いの仕組みをつくるスタートにしたいと考えております。

国民健康保険制度は、国民皆保険制度を根幹から支えてきたところであり、本町におきましても昨年に続き負担を増額しないで、国の社会保障・税一体改革関連法案等動向を見極めながら、住民の皆様の給付の平等と負担の公平のもと、安心して医療を受けられる制度として、より一層の適正な事業運営に取り組んでまいります。

●マンパワーの確保
●災害を防ぐ準備
●災害発生状況の確実かつ正確な情報の伝達・収集
●被災後の復旧を早くする対策
●災害を最小限に抑える応急措置

さらに、災害発生に備えた防災施設、資機材、備蓄品等の整備を計画に沿い進めてまいります。

高齢化と過疎地域でも災害に強い社会づくり「環境」

診療所の連携・充実を図るとともに、樋原歯科診療所及び樋原町社会福祉協議会との連携や地区座談会を開催しながら、医療活動の充実と予防に取り組んでまいります。

高齢化が進み若い人が少ない地域では、個人の力だけでは対応できない火災や自然災害に対応できる社会の支援の仕組みが重要になっております。そのためには、

補助事業や町単独事業で整備するとともに、継続して崩壊危険個所の恐れの調査に取り組んでまいります。

また、樋原町地域防災計画の変更や自主防災組織や企業等と連携し危機意識を高めるためのミニ講座や防災訓練により危機管理体制の充実を図ってまいります。



○「命の道」の整備

道路は、私たちが生きるために最も重要な社会基盤であります。

特に、町中心地から松原に至る町道佐渡鷹取線は、本年度は調査測量業務と用地確保及び橋梁架設に向けた仮設栈橋の工事に着手してまいります。

また、国道197号「野越バイパス」につきましては、附帯工事の完成により、本年度は本体路側工事の一部に着手いたしました。

主要地方道城川梼原線の上成工区及び県道上郷梼原線上本村工区の整備促進と未整備区間への要望活動に努めてまいります。

また、生活道の町道や農林道につきましても、継続的な整備と住民の皆様の日常生活を守り、安全安心な暮らしの確保に向けて昨年度に引き続き、町道の道路構造物及び法面点検を行い、その対策工事について本年度よりスタートさせるとともに、要望の多いアスファルト修繕や交通安全施設整備に対しスピードをもつて取り組んでまいります。

○「命の水」の整備

水は、全ての動植物の生きる「源」であります。梼原の豊かな森林で育まれた「命の水」の良質な水量を確保するための給水施設整備を本年度は、上西の川、下西の川、竹の藪及び仲間地域を簡易水道事業として整備をするとともに、残る要望地域につきましては本年度で100%の整備を目指して取り組んでまいります。

暮らしの安定と産業の振興・発展した社会づくり「産業・くらし」

暮らしの安定を図り、生活をする上で働く場所の確保は、欠かすことのできない定住の大切な基本条件であり、農林業・産業の振興は、本町の重要なテーマであります。

○付加価値の高い農・畜・林等 一次産業の振興

そのため、農畜林商工観光業を連携させ複合的に発展させることで、新たに「産業の振興発展した社会をめざす会」を行政、津野山農業協同組合、梼原町森林組合、梼原町商工会の4団体で立ち上げ、産業振興課の農政、林政、商工観光係に1名ずつコーディネーターを配置し、各

くりと仕組みづくりを行ふとともに、異業種を連携させる仕組みづくりに努めてまいります。

また、基幹産業である農林業を引き継ぐ担い手の育成を図るために、農業では7名の青年・新規就農者の育成、林業では9名の営業・製材・造林・水源林育成士の育成、商工関係では、3名の経営能力育成をするなど、産業を担う人づくりに取り組んでまいります。

また、国道県道町道の維持管理を行っている「ゆすはら道路網維持管理チーム」は、15名を雇用し環境整備に努めてまいります。



栽培「1億円産業の復活」に向けて、農家の意識改革と原木確保、設置、販売などの仕組みづくりを支援してまいります。

こうした社会の変化を捉え、「森林林業再生」に向けて計画的に積極的な取り組みが必要であります。

畜産では、昨年から取り組んでおります子牛を生後3ヶ月まで飼育するキャトルステーションの利用推進やレンタル畜舎による多頭飼育への支援、家畜導入事業の限度額の引き上げ等を図りながら、地域資源を活かした夏山冬里方式の充実と将来に向かつて持続的な津野山畜産の振興と担い手づくりを目指します。

また、高知県産業振興計画に位置付けされている原本椎茸の

て、畜産公社と津野山農業協同組合肥育センターの一体化に向けて検討をしてまいります。

林業においては、新たなCLT工法による木材の利用拡大をはじめ、昨年稼働を始めた「高知おおとよ製材」、平成27年度には、高知市及び宿毛市において、民間主体の木質バイオマス発電施設の整備が予定されるなど、大きな変化の時を迎えております。

また、木材価格も消費税増税を見据えた住宅建築の駆け込み需要などを背景に、現在は10年前の単価にもどりつつあります。が、今後も木材価格変動については余談を許さない状況であり、このような中においてこそ、「森林林業再生」に向けて計画的に積極的な取り組みが必要であります。

生産財としての森林、水源林としての森林、環境財としての森林など、共生と循環を基本に、持続的な林業経営を行うために、町内全ての森林の成長を見直し、どのような森林にすることが良いか、2カ年かけて計画を見直してまいります。

また、地域資源を最大に活かすための施業管理や搬出経費の



図りながら経済の循環につなげてまいりたいと考えております。

さらに、森林セラピー基地・セラピーロードを活かして「ゆはら丸ごとクリニック」の拠点として、雲の上の温泉・プリン・ギャラリーを活かし、健康や美容を促進する機器の整備やホテル、レストランの老朽化対策を図り、交流の拠点「太郎川公園の再生」を図ることにより、企業や都市部の方々が、病気が治り会社に復帰する体力を養う場として、梼原の食、遊、住を提供し「健康を再生する」こと

削減を図るために、道路網計画を見直し、林道、作業道・路について、路網密度1ha当たり100m（現在54m）を目指して、基盤整備の充実を図つてまいります。

また、昨年度より実施している環境基金を活用した間伐搬出材積1m³あたり2000円の交付及びその端材を活かす木質ペレットの原材料の搬出に1トン当たり2400円を継続的に交付し、森林の多様な機能の発揮、林家所得の向上や雇用の維持を

に見合う経済的な支援をいただき、雇用と活力を生む仕組みづくりと事業化に向けて検討をしてまいります。

商工業・観光においては、梼原の地域資源を使った「食」文化を高めるために、各商店等が企画立案し商品化しようとする事業を支援し、梼原のブランド化を進めるとともに、昨年度の反省としつかりとした計画のもと「グルメフェスタ」と土佐牛

削減を図るために、道路網計画を見直し、林道、作業道・路について、路網密度1ha当たり100m（現在54m）を目指して、基盤整備の充実を図つてまいります。

また、昨年度より実施している環境基金を活用した間伐搬出材積1m³あたり2000円の交付及びその端材を活かす木質ペレットの原材料の搬出に1トン当たり2400円を継続的に交付し、森林の多様な機能の発揮、林家所得の向上や雇用の維持を

商店街の再生と活性化に向けてまいりたいと考えております。

また、観光の拠点施設として整備を進めてまいりました旧代役場庁舎と梼原千百年物語り歴史民俗資料館を中心に、町内全域の商店、観光地、ホテル、民宿、グリーンツーリズム、各区の集落活動センター等が連携する仕組みと、町外の情報を受

発信する拠点として、各市町村や企業等との交流・連携をさらに深めながら、移住定住や経済につながる仕組みを考えています。

こうした経済の活力を生むための仕組みの充実と合わせ、消費税増税に対する消費の落ち込みや景気の腰折れを防ぎ、活動あるまちづくりにスタートをきるため、町内全ての事業者に参加をいただき、何にでも利用できる町民全員が一人3万円まで購入できる20%のプレミアつき「ゆすはら元気商品券」を商工会と連携し発行に取り組んでまいります。

商工業・観光においては、梼原の地域資源を使った「食」文化を高めるために、各商店等が企画立案し商品化しようとする事業を支援し、梼原のブランド化を進めるとともに、昨年度の反省としつかりとした計画のもと「グルメフェスタ」と土佐牛

○自然や環境に配慮した暮らしの推進

「命の水」の確保に伴い、環境の里として合併浄化槽の導入の要望が増加しておりますので、その財源を確保し町民の生活環境の向上と環境モデル都市として清流四万十川の水質保全により一層努めてまいります。

また、「土づくりセンターアー」は良質の堆肥が製造できており、生し尿をはじめ地域で排出される廃棄物を有用資源として活かした循環型社会づくりに取り組んでまいります。

また、津野山広域事務組合で処理しています生ゴミ等の処理につきまして、RDFペレット化していますが、人口の減少に反してゴミ量は増大し維持管理経費とペレット搬送代金が3千円を超えるなど見直しが必要となつており、昨年度から経費を基本に検討を進めてまいりました。

その対策として、本年はゴミの適正な分別、再生、処分等の処理と減量化を進める人材育成と組織づくりに取り組むとともに、施設の老朽化に伴う新たな処理方法について検討してまいります。

その多くの発電量を占める風力発電施設については、県とともに検討業者を選定し、設置について検討をしてまいります。

また、構想のもう一つの大きな柱であります森林資源のエネルギー活用を進める「木質バイオマス地域循環利用モデルプロジェクト」につきましては、オガ粉製造機の導入により、安定的な生産量の確保となりつつあります。

○環境モデル都市の推進

国においては、エネルギービジョンを策定し農地をはじめ様々な規制緩和に向けて取り組んでおり、本町におきましてもその動向をしっかりと捉え、森林と共生する「生き物に優しい低炭素社会」を目指して、自然再生エネルギー自給率100%を目指してまいります。

鳥獣害対策につきましては、獣友会の方々と連携して年間を通した駆除対策を行うとともに、同じ生き物として棲み分けのできる栽培方法や鳥獣に荒らされない農地づくりなど、地域

**自信あふれる梼原人を育てる教育
の確立した社会づくり「教育」**

これからの時代に求められるのは、世の風潮に流されず、人として正しいもの、美しいものをきちんと見極めることができ。勇気をもって行動ができる人。他人の痛みのわかる優しさを持つている人。進取の気性に富み、未知の世界に臆することなく挑戦する人であります。正に「梼原人」であります。

その梼原人を育てるために、子育ての支援の充実と「梼原町一貫教育支援センター」の充実を図り、0歳から18歳までの子供たちの育成に努めてまいります。

○幼児教育の充実

「梼原こども園」の充実により、小学校に確実に繋げていくために質の高い教育の提供を目指してまいります。

そのために「幼児教育アドバイザー」を中心に、配置3年目となる本年度は「検証・充実・発展の年」として位置付け、児童教育の充実に取り組んでまいります。



○小中一貫教育

学力・体力の低下や家庭の指導力の低下に総合的に対応するため、9年間にわたる教育を実践し、問題解決型をより充実させ具体的な取り組みを進めてまいります。

その方法として、人間関係づくりに焦点をあて、気になる児童生徒への支援体制、「つまずき克服」に向けた取組、そして基礎学力の定着と学力の向上を目指し、生徒指導の充実を図つてまいります。

そのためには、生徒を指導する教員一人ひとりの資質の向上



○中高一貫教育について

教育の根幹は、学習指導要領にもある国語力であり、学校図書館支援員との連携を図りながら読書の推進、新聞の活用、実践的な国語指導の充実に取り組んでまいります。

こうした取り組みを実現するためには、先ず保護者の方々との共通認識が必要であり、学校、

津野山地域一貫教育推進協議会は、梼原中学校、東津野中学の両校と梼原高等学校が連携を図りながら、中高一貫教育校として6年間の連続した中で交流を深めてまいりましたが、入試制度が、平成27年度受験から大きく変わることから、今まで以上に力を付ける教育が必要となります。

さらに、高知県内の県立高等学校の再編に関することが議論されている中でもあり、本町の最高学府として位置付けし、学校、地域、PTA及び教育委員会のより深い連携により、梼原高等学校の魅力づくり、選ばれる高校づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

○国際的に通用する会話力を身に付ける教育

保育所から英語教育をはじめ、幼稚園、小・中学校、梼原高等学校にいたる18年間のプログラムで、国際的に通用する会話力を身に付ける人材を引き続き育成してまいります。

具体的には、卒業時の進路を見据えた人間教育を基本とし、勝つことの喜びを感じている野球部の支援、梼原高等学校を選択することで海外に留学できる制度を創設するための基金づくりに初年度として2百万円を交付してまいります。

○教育環境の充実

制度を創設するための基金づくりに初年度として2百万円を交付してまいります。

原学園及び英会話教室の充実を図つてまいります。

そして、学生の希望が多い海外での生活体験の機会を与えるため高幡広域事業による中学生オーストラリア研修及び実践的な研修プログラムとしてのイギリス（ブリストルクリフトンカレッジ）研修を実施してまいります。

○生涯学習を通じて楽しく学ぶ 場づくりの推進

住民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたり、いつでも、どこでも、誰でも、楽しく学ぶことができると共に、知識の共有を図る場づくりが求められています。

そのことを「生涯学習のまちづくり」として捉え、町民の皆様とともに「図書館づくりを考える会」を立ち上げて、本町の文化創造力・学びの場、児童生徒の豊かな成長を支援する子育ての場、交流の場、情報発信の場としての図書館づくりに取り組んでまいります。

また、本町の豊かな森林環境を子ども達に気づかせ、その体験活動を通して生きる力を育む

ため、山の学習支援事業を導入し、「総合的な学習時間」において森林環境教育を行つてまいります。

そして「地域総合型スポーツクラブ」の活動を通じて、子ども達の心身の成長や町民の健康づくりと体力増進、交流の場として活用できる環境を提供してまいります。

○伝統文化を引き継ぐ「芸術祭」

本町の千百年の歴史・伝統文化を未来に引き継いでいくことが私たちの使命であります。

しかし、少子化、高齢化の急速な進展の中で、神楽保存会においても20代の継承者はおらず、文化祭でも出展者は年々減少しているところであります。

このため、産業祭の見直しと合わせ文化祭も見直し、次の100年に向かって、「芸術祭」として、スタートしたいと考えております。

このため、産業祭の見直しと合わせ文化祭も見直し、次の100年に向かって、「芸術祭」として、スタートしたいと考えております。

○移住・若者定住対策

若者定住対策計画書に基づく

2年目の今年は、「エンジエルサポート」や「ゆすはら応援隊」「ゆすはら未来大使」など多くの方々の応援をいただき、町内外を含めた出会いの場づくりや町の情報を、都市部を中心積極的にPR活動に取り組んでまいります。

また、移住定住対策として、情報の受発信を行う窓口を企画財政課企画定住対策係に総合コーディネーターを配置し移住定住者と連絡をとりながら、空き家・住まい情報、働く場の紹介、農地の状況など情報を提供するとともに、農林商工観光担当各コーディネーターと定期的な意見交換会の開催や連携を図る仕組みづくりに積極的に取り組んでまいります。

共演、兵庫県西宮市の劇団の公演、書道パフォーマンスなど人ととの組み合わせ、ギヤラリー、ゆすはら座などの施設の組み合わせにより、榜原に埋もれている方々を掘り起こすとともに、伝統文化を引き継ぐ「人づくり」に取り組んでまいりたいと考えております。

「住宅」は、定住条件の一つであり、皆の絆を確かめ合う場であるため、これまで進めてきた住宅環境整備への支援を町産材の産業振興と併せて継続するとともに、一定の町有地について提供してまいります。

一方で、住宅の不足、公営住宅の老朽化による維持管理費が増加しております。このため、地域資源を活かす観点から空き家の活用を図ることにより、地域の景観の保全や集落の維持にもつながることから、所有者がから10年間、町が借り受けし改修を行い「住宅」として活用する取り組みも積極的に進めてまいります。

また、移住定住対策として、情報の受発信を行いう窓口を企画財政課企画定住対策係に総合コーディネーターを配置し移住定住者と連絡をとりながら、空き家・住まい情報、働く場の紹介、農地の状況など情報を提供するとともに、農林商工観光担当各コーディネーターと定期的な意見交換会の開催や連携を図る仕組みづくりに積極的に取り組んでまいります。

さらに、官民一体となつて考え行動する「(仮称)くらそう文化センター」「はつせ」「まつばら」の充実と「四万川」が、いよいよスタートいたします。

また、家族が生活するうえでP.R活動を行つてまいります。また、家族が生活するうえでP.R活動を行つてまいります。

このため、三つの集落活動センターの足らないところを補完し、支え合い・助け合い活動を広げるために、「集落活動センター連絡協議会」の設立を支援し、集落の維持発展と組織の運営体制の充実に向けて積極的に支援してまいります。

また、旧越知面小学校の一部改修や旧西川小学校跡地へ竹の薮集会所機能を備えた地域活動拠点施設を整備し、地域の活性化を支援してまいります。

さらに、現在地域のサポートとして配置をしておりまして3年目を迎える「ゆすはら応援隊」の継続的な活用を図るために、7月から新たに3名を雇用し、集落活動センターを拠点として各区の地域振興の連携と更なる活性化に向けて取り組んでまいります。

先人達は、激動の時代の中で

**人の尊厳が守られ
「絆」を大切にする社会づくり**



強い絆による団結力を發揮して、決断と実行を繰り返し、人と人の絆の力で不利な条件を克服し、梼原というすばらしい地域社会を築いてまいりました。その絆の文化が今もなお、家庭から地域社会にまで広く引き継がれています。

この絆の良き面を、さらに磨き「対話力」と「協働力」を高めていくことが、梼原が発展する大きな力であると確信いたして、取り組んでまいりたいと考えております。

特に、国、県に大きく財源を依存している本町においては、単に財政環境の悪化を乗り越えるだけでなく、限られた財源で梼原町の地域社会と住民の思いを達成し、満足度を高める行政運営を実現する事が最も求められます。

それは、単純に財政支出をカットするのではなく、本町の良き伝統を磨き、住民が主役の考え方を基本に、目的的、目指す社会を定めその目的に至るプロセスをつくり、階段を着実に上がる仕組みをつくる新しい考え方につけて、住民や団体、地域の成功を目指す行政であります。

特に、国、県に大きく財源を依存している本町においては、単に財政環境の悪化を乗り越えるだけでなく、限られた財源で梼原町の地域社会と住民の思いを達成し、満足度を高める行政運営を実現する事が最も求められます。

本町の今日の繁栄は、先人の皆様が厳しい時代の中で目的を定め、皆で心を一つにして挑戦し、決断と実行を繰り返してきた成果であります。

そうした力が、今、全国で「支え合い」「絆」という言葉で求められようとしております。

そのためには、人と人の絆が大切であります。

東日本大震災後に「人の絆」の大切さを日本はもとより、世界の方々が社会の力の源泉として再認識されておりますが、我が梼原には、「人と人の絆を大切にする文化」と「進取の気性に富む」という素晴らしい風土があります。

また、生きている私たちが「ふるさとゆすはら」を絶えことなく、未来に引き継いでいかなくてはなりません。

今年1年を漢字一文字で表現するならば、私は変化の「変」「かわる」としたいと思います。

過疎化・高齢化でも支え合つて生きる集落活動センター活動により支え合いの活動が変わります。梼原町社会福祉協議会が法人化となり新たな組織に変わります。移住定住対策の仕組みが変わります。国政も新たに変わりました、日本が変わる時であります。

時代は大きく変化しております。

私は、そうした今こそ、老子の「上善は水のごとし」の言葉を強く感じております。

「水」には学ぶことができる三つの特徴があります。

一つは、どんな形の器にも逆らわず形を変える柔軟さです。

二つ目は、低いところに身をおくのは誰でも嫌なものです

が、水は人の嫌がる低いところに流れていきます。謙虚な姿で、自分の能力や地位を誇示しません。

三つ目は、内なる大いなるエネルギーを秘めていて、時には

○町制50周年に向けて

梼原誕生1200年の新たな100年に向かうスタートの年であり、2年後の町制50周年にかけて町史を策定するための資料収集や整理を行うために組織をつくり、準備をしてまいります。

そのためには、良い対話を重視した「傾聴と伝え方」が最も重要であり、まず行政から率先して良い対話の仕方、聞き方、伝え方を学習し、行政の組織能をパワーアップさせることができます。

従来の行政の考え方などらず職員の主体性が高まり、成長する経営を目指して、時間はかかりますが、役場を担う人材育成に取り組んでまいります。

私にとりまして、いよいよ二期目のスタートの年であります。

本町の今日の繁栄は、先人の皆様が厳しい時代の中で目的を定め、皆で心を一つにして挑戦し、決断と実行を繰り返してきた成果であります。

そうした力が、今、全国で「支え合い」「絆」という言葉で求められようとしております。

時代は大きく変化しております。

私は、そうした今こそ、老子の「上善は水のごとし」の言葉を強く感じております。

「水」には学ぶことができる三つの特徴があります。

一つは、どんな形の器にも逆らわず形を変える柔軟さです。

二つ目は、低いところに身をおくのは誰でも嫌なものです

が、水は人の嫌がる低いところに流れていきます。謙虚な姿で、自分の能力や地位を誇示しません。

三つ目は、内なる大いなるエネルギーを秘めていて、時には

硬い岩をも碎く力強い力も持っています。

このように、水は「柔軟」「謙虚」「秘めたるエネルギー」の三つの特徴をもっています。また、この自然の中で水なくして生きる動植物はなく、それほど偉大な存在であります。

「対話と満足度」を高める 役場がある社会づくり

「対話と満足度」を高める

また、今を生きている私たちが「ふるさとゆすはら」を絶えことなく、未来に引き継いでいかなくてはなりません。

今年1年を漢字一文字で表現するならば、私は変化の「変」「かわる」としたいと思います。

過疎化・高齢化でも支え合つて生きる集落活動センター活動により支え合いの活動が変わります。梼原町社会福祉協議会が法人化となり新たな組織に変わります。移住定住対策の仕組みが変わります。国政も新たに変わりました、日本が変わる時であります。

時代は大きく変化しております。

私は、そうした今こそ、老子の「上善は水のごとし」の言葉を強く感じております。

「水」には学ぶことができる三つの特徴があります。

一つは、どんな形の器にも逆らわず形を変える柔軟さです。

二つ目は、低いところに身をおくのは誰でも嫌なものです

が、水は人の嫌がる低いところに流れていきます。謙虚な姿で、自分の能力や地位を誇示しません。

三つ目は、内なる大いなるエネルギーを秘めていて、時には

夢を常に語りながら、その夢に日付を入れると、目的・目標に変わります。そして、現在を見つめるとプロセスに変わります。

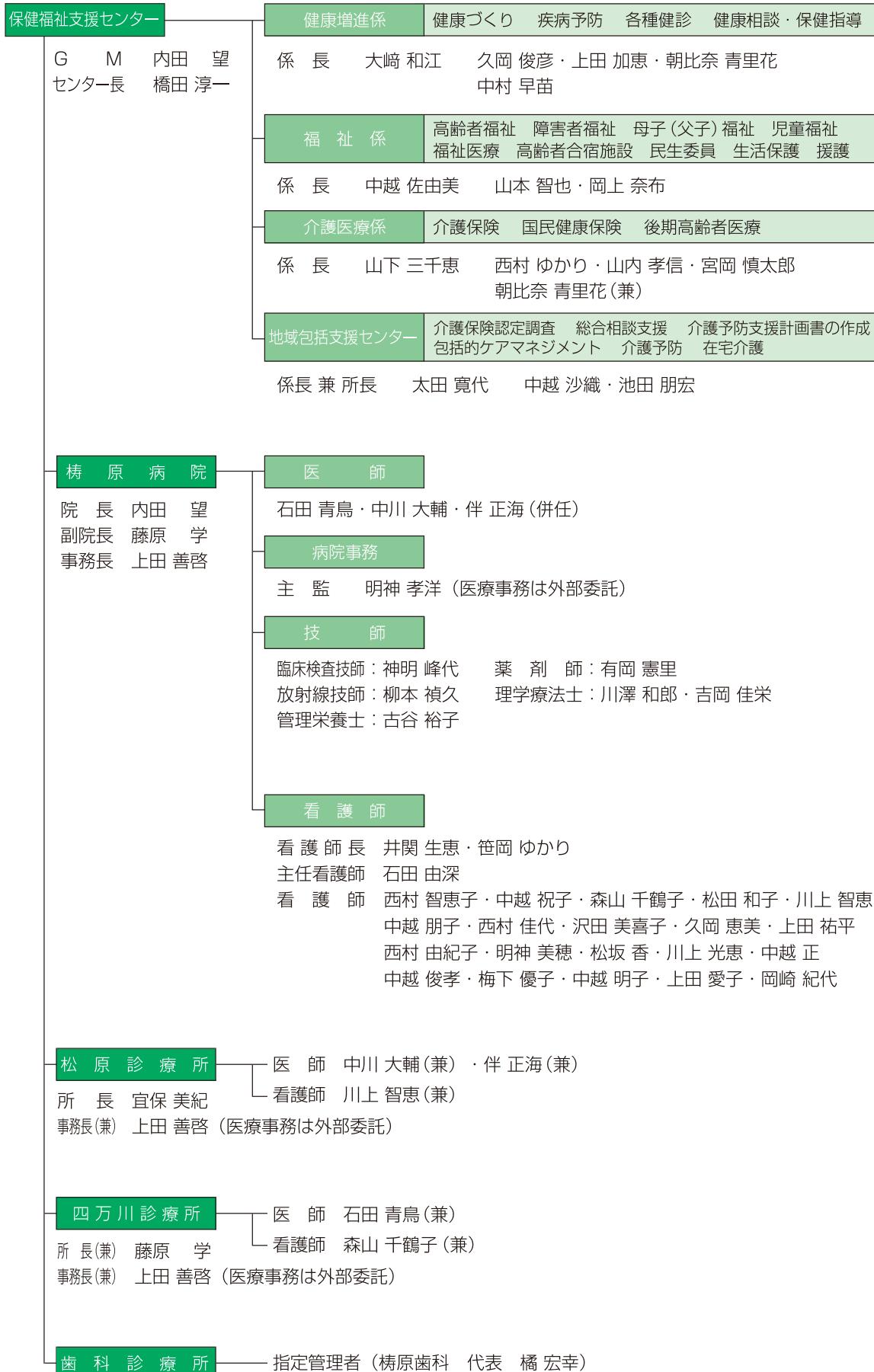
私は、その仕組みをつくりながら6つの目指す社会に向けて挑戦してまいります。

そのためには、職員を督励し町民の皆様の「梼原が好きだ」「この地で一生過ごしたい」との思いを、熱き心を一つにする取り組みを進めながら「選ばれる町」となるために全身全霊を注いでまいります。

樋原町の組織機構及び職員配置表

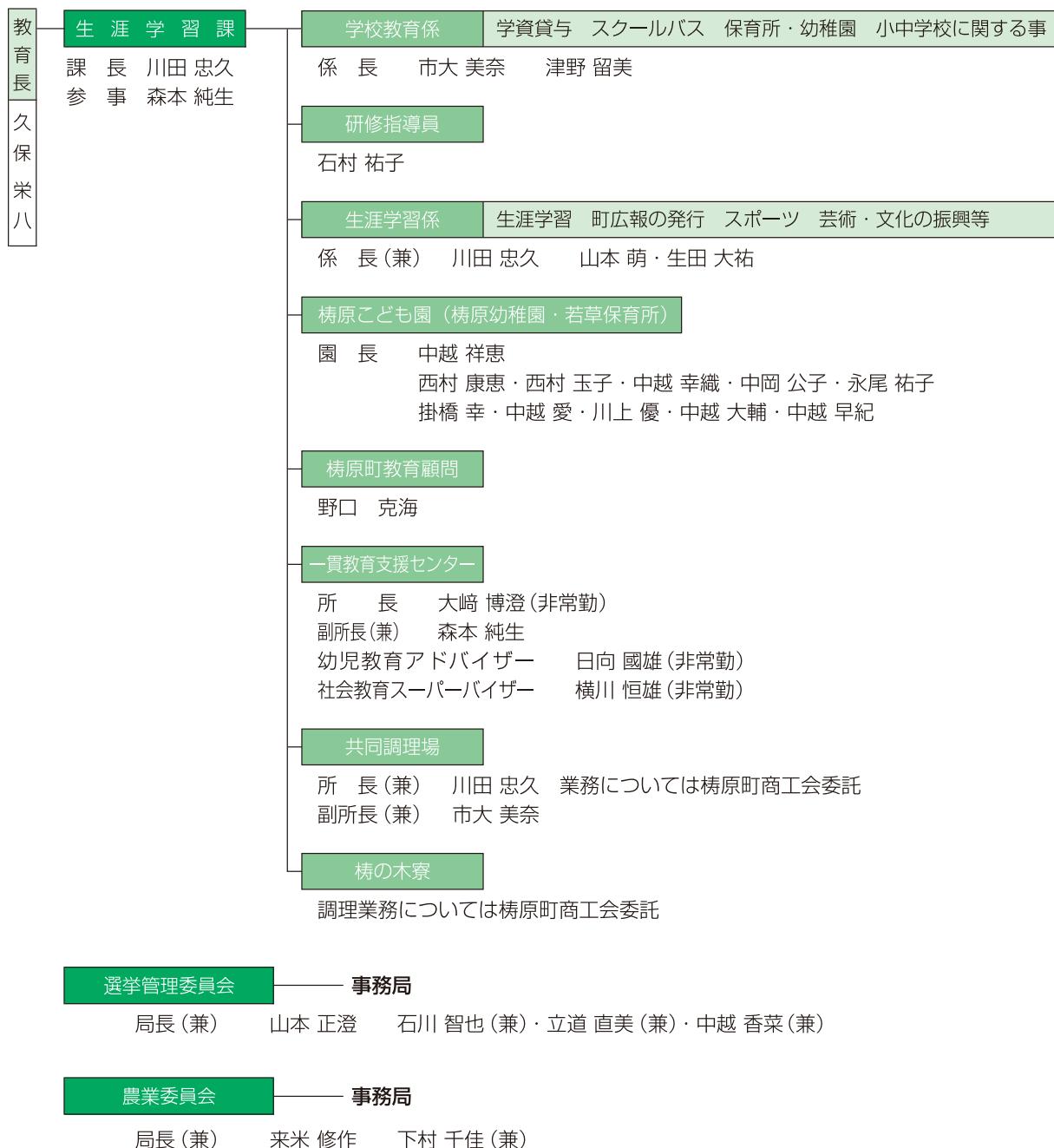
H26.4 現在





教育委員会組織機構及び職員配置表

H26.4 現在



退職者・転任者

平成26年3月31日付で、
次の方が退職・転任されました。

退職者

中岡倫（出納室長兼会計管理者）	山口眞知子（橋原こども園園長）
久保八栄美（保健福祉支援センター参事）	明神真奈（橋原こども園教諭）

転任者

上田浩平（馬路村立馬路診療所）	北村亘（仁淀川町大崎診療所）
西村芳美（津野町へ）	渡邊聰子（福島県いわき市へ）



小学校の部

○転入・町内移動

(教頭) 宮本 文子
宇佐小より

(教諭) 西山 京子
樋原町教育委員会より

(講師) 岡本 彩
大野 幸繁

(主事) 森竹 弘喜
旭小より

(教頭) 大崎 聰子
愛媛県宇和島市より

新採用

(教頭) 久保田徳雄
校長として十川小へ

(教諭) 西村 寿栄
須崎南小へ

○転入・町外校へ転出

(教頭) ○転入・町内移動

(教頭) 西森 大城
樋原町教育委員会より

(教諭) 三本 美香
朝ヶ丘中より

(教諭) 柴岡 理恵
農林省松江市第四中より

(教諭) 奥崎 公太
佐川中学校より

新採用

中学校の部

高等学校の部

○転入

(教頭) 中越 敏博
高岡 高より

(教諭) 小笠原理佳
春野 高より

(教頭) 高野 真則
池川中へ

(教諭) 田岡 大典
中村特別支援学校より

(教頭) 益永 貴仁
校長として清水高へ

(教諭) 濱田 達矢
幡多農高へ

(教頭) 米村 達樹
山田養護・田野分校へ

椿原千百年物語り

閉幕にあたり

昨年の3月31日に西区の三嶋神社にて神楽の舞い始めを行い、早くも一年が過ぎました。

この一年、町民の皆様や町外の応援団の皆様をはじめ、多くの方々のご支援ご協力をいただき、樋原町から情報の発信ができ、町づくりが大きく進んだ年でありました。

3月23日(日)には一年の感謝を込めて、東区の三嶋神社で神楽の舞い納めを行い、

高知県から観光振興部長、久保博道さまをはじめ多くの方々のご臨席をいただき、感謝の集いができましたことに厚くお礼申し上げます。

雪の樋原を印象付けた全国

神楽大会、皆で盛り上げた土佐牛まるかじり大会、高原まつり、有森裕子さんをゲストにお招きしたねんりんピックマラソン大会、龍馬脱藩マラソン、たくさんのご指導をいたしましたグルメフェスタ、

樋原誕生1200年に向かつて、心をひとつにして、

次の100年につながる記念式典、産業祭、樋原高校生と土佐塾生のコラボ演劇、消防団の農村歌舞伎と町民の皆様から芸術家となりうる力を發揮いたしました。

このように、歴史民俗資料館を拠点に様々な、樋原の歴史、文化、決断と実行を繰り返してきた生き方を発信、見えて化でき、新たに自信と誇りにつながることとなりました。

我が樋原には、「人と人の絆を大切にする文化」と「進取の気性に富む」という素晴らしい風土があります。

今を生きている私たちが「ふるさと樋原」を絶えることなく、未来に引き継いでいかなくてはなりません。

そのためにも、私は、町民の皆様方と、樋原町の総合振興計画の6つの目指す社会に向かつて、心をひとつにして、

椿原千百年物語り実行委員会
会長 樋原町長 矢野富夫



三嶋神社での千百年記念碑除幕の様子

3月29日（土）、四万川区において、高知県知事尾崎正直氏をはじめとする高知県関係者や町関係者、四万川区の皆様、約150名が参加して、集落活動センター「四万川」開所式典が盛大に開催されました。

このたび完成した、しまがわ給油所において、集落活動センター「四万川」代表空岡則明氏の挨拶の後、テープカットが執り行われました。続いて行われた餅まきには、子供からお年寄りまで、多くの住民の皆さんにご参加いただきました。

その後、四万川交流センターに移動し、センターカー看板の除幕式の後、センター内において式典が開催されました。

式典の開会にあたり、集落活動センター「四万川」代表空岡則明氏がお礼とこれまでの活動への思いを述べられ、ご来賓として出席いただいた高知県知事尾崎正直氏からは、本センターの開所に際し心温まる激励の言葉を頂戴いたしました。

その第一歩として、地域の安定した燃料供給体制を整備するため、地域住民等175名が出資し、平成25年9月5日に株式会社四万川を設立。平成25年11月1日に、集落活動センター推進事業の採択を受け、ガソリンスタンドの整備と合わせて、地場産品販売所並びに、観光案内所機能を有する、複合型燃料供給施設の整備を行い、このたび落成の日を迎えた。

（株）四万川では、ガソリンスタンドの運営をはじめ、今後、農林業用資材等の供給や農産物の

3月29日（土）、四万川区において、高知県知事尾崎正直氏をはじめとする高知県関係者や町関係者、四万川区の皆様、約150名が参加して、集落活動センター「四万川」開所式典が盛大に開催されました。

このたび完成した、しまがわ給油所において、集落活動センター「四万川」代表空岡則明氏の挨拶の後、テープカットが執り行われました。続いて行われた餅まきには、子供からお年寄りまで、多くの住民の皆さんにご参加いただきました。

その後、四万川交流センターに移動し、センターカー看板の除幕式の後、センター内において式典が開催されました。

式典の開会にあたり、集落活動センター「四万川」代表空岡則明氏がお礼とこれまでの活動への思いを述べられ、ご来賓として出席いただいた高知県知事尾崎正直氏からは、本センターの開所に際し心温まる激励の言葉を頂戴いたしました。

集落活動センター開所



4月26日（土）を予定しております。

しまがわ給油所のオープニングは、集出荷等の事業を運営していく計画です。

この集落活動センターの取り組みを通じて、地区内にある魅力と住民の絆の力を磨き、地域経済の循環に向けた仕組みづくりによる、集落活動の維持、発展に向けて具体的な取り組みがなされていくものと期待されます。

四万川ヘリポート完成

梼原町内で三ヵ所目となるヘリポートが四万川区坂本川に完成し、3月10日から運用できるようになりました。

四万川区は災害発生時に孤立する可能性が高く、救急搬送にも時間がかかるため地域住民にとって待望のヘリポート完成となりました。

今後は、ヘリポートを活用した防災訓練を実施し、有事に備える取り組みを行っていきます。

また災害時には、緊急輸送物資等の搬送について迅速な対応が可能となります。



ご案内

防災講演会 東日本大震災を経験し伝えたいこと

梼原町では、各自主防災会と協力し平成26年度に2回に分けて防災講演会を開催します。去る3月14日午前2時ごろ梼原で震度3を観測する地震が発生し、今後四国周辺での地震活動に注意が必要です。災害発生時、自助・共助による地域で力を合わせて、活動ができる自主防災組織となる

- 日時／4月26日（土）午前9時から10時30分
- 場所／梼原地域活力センター
- 参加費／無料

平成
26年度

通常総代会開催

3月27日（金）、平成26年度通常総代会を、町、町議会、県出席機関、関係団体の臨席のもと、総代員数198名中、135名（実出席92名、委任状24名、書面19名）の出席を得て、地域活力センターで開催しました。

組合長挨拶に引き続き、来賓の矢野富夫町長、黒岩準彦須崎林業事務所長、戸田文友森林組合連合会会長から祝辞をいただき、議長に高橋基文町議会議長が就任し、第一号議案から第六号議案まで慎重な審議が行われ、全議案が提案どおり承認されました。

25年度の組合事業では、間伐などの補助金、交付金事業に必要な森林経営計画作成のため、森林所有者に間伐事業などの計画について意向確認作業を進め、本年3月末の計画樹立面積は631haで、町内民有林面積の約35%となりました。また、持続的な森林経営の確率に向けて、総合対策事業を導入して、昨



年度に引き続き作業路の改修・改良に取り組み、その路線延長は41kmメートルになりました。間伐事業では、25年度から、新たに持原町の水源地域森林交付金事業により、間伐材搬出1m³当たり2000円の交付金事業の開始、また、高知県の自伐林家支援事業を利用した間伐材の搬出を奨励し事業を進め、住宅着工戸数の大幅な伸びなどによる原木単価高騰により大きな山元還元ができました。

引き続く厳しい経済状況の中での25年度事業でしたが、一定の成果を上げることができました。

これも偏に高知県、持原町ご当地並びに持原町議会を始め関係機関のご指導とご支援、また組合員の皆様のご理解、ご協力の賜物であり深く感謝致しました。

こうした状況の中で、県内の動向は、昨年8月から年間10万m³の製材能力を持つ大型製材処理能力を持つ「高知おおとよ製材工場」の操業開始。高知市、宿毛市では27年春から再生可能エネルギーの固定買取価格制度による木質バイオマス発電事業がスタートする予定で、この3つの事業により、最大35万m³の新たな販売先が確保できる状況となつてまいりました。

また、森林の経済的な循環、あるいは、森林のCO₂吸収など地球環境保全機能維持のため、標榜伐期での収穫、再造林などの森林の育林体系についても協議・検討を重ねてまいります。

販売・加工部門においては、FSC認証ブランドによる安心・安全な顔の見える住宅づくりを進め、森林による地域経済の活性化に努力をしてまいります。

なお、林業経営改善林地取得資金や造林資金の転貸資金について、その借入転貸残高は、最大19億円ありましたが、順次繰上償還、定期償還を行い、25年度末で借入金の全額の償還が終了しました。山の景気のよい時に借り入れて、順次、木材単価が厳しくなつての返済になりました。

平成26年度の事業計画

最後に、26年度も引き続き厳しい状況が予想されますが、役職員一致結束して事業を推進してまいりますので、組合員はじめ関係機関の皆様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

加工事業では、消費税率アップ前の駆け込み需要による住宅着工数の伸びによる需要増や、四国、関西地域の工務店・設計士事務所との販売ネットワークを活かし、家族単位やバスツアードで32家族とスタッフなど合計174名を持原町に迎え、FSC森林内での伐採祈願祭や製材工場の見学会開催などで、安心・安全な持原産材での住宅建築を希望する施主の増加で、計画を上回る成績を上げることができました。

我が国の森林資源は、人工林を中心には本格的な利用期に入りつつあるものの、国内の森林・林業は、原木価格の低迷などに、林業所得の減少、森林所持の流通構造の改革の遅れなどにより、依然として厳しい状況に置かれています。

我が国は、森林資源を樹立し、上、販売営業担当者の育成を行つてまいります。また、森林経営計画を樹立し、作業道開設・利用間伐を推進していくとともに、県や町の指導を得て公共事業と間伐事業の実行時期がバッティングして、旨く機能していない、林建協働ジョイント事業の検証を行い、将来に亘る森林・林業・林産事業に従事する林業後継者や林産事業体の育成について検討を重ねてまいります。

また、森林の経済的な循環、あるいは、森林のCO₂吸収など地球環境保全機能維持のため、標榜伐期での収穫、再造林などの森林の育林体系についても協議・検討を重ねてまいります。

販売・加工部門においては、FSC認証ブランドによる安心・安全な顔の見える住宅づくりを進め、森林による地域経済の活性化に努力をしてまいります。



平成20年度に国の選定を受けた「四万十川流域の重要な文化的景観」の関連行事として、「四十街道ひなまつり」が今年も萬十街道ひなまつりが今年も流域各地で開催されました。町内では梼原と松原を主会場として行われました。

梼原会場では3月3日から10

日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

町内の皆様をはじめ高知県や愛媛県の各地から300名を超える皆様に来ていただきました。老人クラブ女性部による「にこにこ喫茶」（普段は毎週火・金曜日に開店）も連日オーブン、手作り饅頭やコーヒー・抹茶などでおもてなし、200名近くの方々にご利用いただきました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

山里にふんわりふわり 春日和 わらべに返る雛めぐり



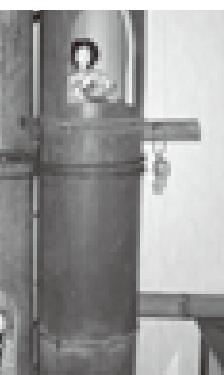
梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。



梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

梼原会場では3月3日から10日迄の7日間、旧若草保育所で地域の方々や老人クラブ女性部、梼原こども園の皆様の協力により盛大に開催されました。

デイサービスわだじま休止のお知らせ

平成13年より保健福祉支援センター3階で開業していましたデイサービスわだじまが、人員体制が整わないことから平成26年3月31日で休止させていただくことになりました。

利用者やご家族の皆様方、町民の皆様方には、長年にわたり温かいご支援をいただきましたこと、心から感謝申し上げますと共に、突然の休止にご迷惑をおかけしますことを心からお詫び申し上げます。

平成26年3月末

四国部品(株)介護 サービスなごみ事業所 デイサービスセンターわだじま

四国財務局からのお知らせ

国有地の取得に関する架空話(うまい話)にご注意!!

近時、国有地の取得に関する架空話が多数発生しています。

○国有地は、原則として一般競争入札で売却します。財務省の職員が、個別に国有地について、随意契約できるような働きかけを行い、個人や特定の民間企業に対し、直接随意契約で売り払うこととは、一切ありません。

ケース①

- ・国との信頼関係を装い、国有地の購入ができる
ような話を持ちかける。
- ・「〇〇市の国有地が近く入札にかけられる。
- ・財務省の△△と懇意にしている私が関与・仲
介すれば、あなたの土地として必ず取得でき
るので、手付金をお預かりしたい。」

ケース②

- ・いったん入札にかけた物件を、随意契約でき
るかのような話を持ちかける。
- ・「国有地を1日だけ入札公告し、直ちに国が
取り下げ、落札しなかった物件として随意契
約できる協定を財務省と結んでいる。事前に
手付金や手数料を払ってほしい。」

ここにあげたものは、あくまでその一例であり、手口は年々巧妙化しています。

国有地の売却情報については、下記の財務省財務局ホームページをご確認ください。

〈財務省財務局ホームページ http://www.mof.go.jp/about_mof/zaimu/zaimu.htm〉

また、少しでも不審な点があれば、
右記の財務局・財務事務所へ、
すぐにご連絡、ご相談ください。

四国財務局 高知財務事務所 管財課 ☎088-822-9177
〒780-0061 高知県高知市栄田町2-2-10 高知よさこい咲都合同庁舎9階

守りたい人がいる

高知県警察では、次のとおり警察官の募集を行っています。
高知の未来のために、あなたの情熱・勇気・優しさを活かしてみませんか？

警察官A 採用試験

★受付期間 4月14日(月)～5月22日(火) ★第一次試験 7月13日(日)

★受験資格 昭和59年4月2日から、平成9年4月1日までに生まれた人で、学校教育法による
4年制の大学等を卒業した人、及び平成27年3月31日までに卒業見込みの人。

※申込書は、須崎警察署又は最寄りの駐在所にありますので、受験を希望される方はお寄りください。

採用に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

高知県警察本部

警務課人事係 088-826-0110
須崎警察署 0889-42-0110

おまわりさんに、さあなろう

0120-032376

こんな“けし”を見つけたら、 福祉保健所まで連絡を！



けしの仲間は、通常4月から6月にかけて美しい大きな花を咲かせますが、その一部には、法律で栽培が禁止されているものがあり、誤って庭先などに植えられている事例があります。お心当たりのある方は、勝手に抜かず、須崎福祉保健所までご連絡をお願いいたします。



不正けし
の特徴

- ① 花びらは一重のものや、八重のものなど様々ある
赤、薄紫、白、桃などの色がある
- ② 葉は互い違いに茎につき、茎を抱き込むような形
- ③ 葉や茎にほとんど毛がない

【連絡先】須崎福祉保健所 衛生環境課 ☎0889-42-1999



町組の釣り名人と三嶋神社の下で魚釣り体験

雨上がりの寒い日でしたが、橋原の川で釣り竿を振り、糸をたらし魚釣りを楽しませてもうことができました。前もってマスの放流をしてもらったり、餌のゴムシも捕ってもらっていました。ポイントあたりに餌を沈めて…！グングッ！と、手に感触を感じた子もいて、大きなマスやハヤゴ・イダが釣れました。

釣った魚は、所々にあるくぼみの周りに石を積んで、そこを池にし入れていました。ゴムシや魚にも触ってヌルッとしたりの体験ができて良かったと思います。



おおきくなつたね！

最後の参観日。お家人といっしょに踊りや絵本、バルーンくぐりと触れ合いを楽しみました。

証書渡しではたくさんの目が自分たちに向いていてドキドキ！緊張したけど、自分の名前を言ってみようと頑張りが見られました。お母さんと離れて涙が出てしまうこともあったけど、親から1歩離れた姿を見てもらうことができて、お家人の人も子どもたちの1年間の大きな成長を感じていただけたかと思います。



卒園おめでとう!! 「大きくなつたらどんなお仕事したい？」

- ケーキ屋さん（立道のあさん）
- お医者さん（藤原くうがくん）
- パティシエ（松浦ゆいさん）
- 大工さん（片岡ともきさん）
- ケーキ屋さん（大谷まほさん）
- サッカー選手（武正じんくん）
- お医者さん（西村ひなさん）
- ケーキ屋さん（中越みとさん）
- 助産師さん（廣瀬はなのさん）

- お医者さん（山下けいとさん）
- 大工さん（大川りょうくん）
- レストランの人（中越せらくん）
- サッカー選手（前田こたろうくん）
- 保育園の先生（片岡みおりさん）
- 看護師さん（坂本みなみさん）
- 大工さん（上川たいちくん）

- パティシエ（上田ららさん）
- 看護師さん（森山こはるさん）
- サッカー選手（岡本そらくん）
- 看護師さん（下元りなさん）
- ペット屋さん（下元のえさん）
- 看護師さん（大利はるかさん）

日々の生活や体験からやりたいことがいっぱい見つかりましたね。みんなで夢を応援していますよ！ いつまでも…



小中一貫教育校 棚原学園の卒業式が行われ、棚原学園の第3期の卒業生が卒立つていきました。式ではたくさんの方々の保護者、来賓・関係者の方々をお迎えし、厳かな雰囲気の中で、校長先生から一人一人が卒業証書をいただきました。

平成23年4月にスタートした棚原学園に初めて入学してきた中学校卒業生。1年目に出会った仲間と過ごした3年間の中学生活に別れを告げ、22名が学園を卒業しました。進学する高校は違いますが、小学生とも同じ敷地内で生活を送り、他の学校ではできないたくさんの経験を生かして、それぞれ目指す道に向かつて頑張つてほしいと願っています。

また、小学校を卒業した27名は小学校のリーダーとしてこの1年間よく頑張りました。今後は中学生として、決意も新たに活躍してほしいと思います。

卒立ちの春

棚原学園だより

第30号

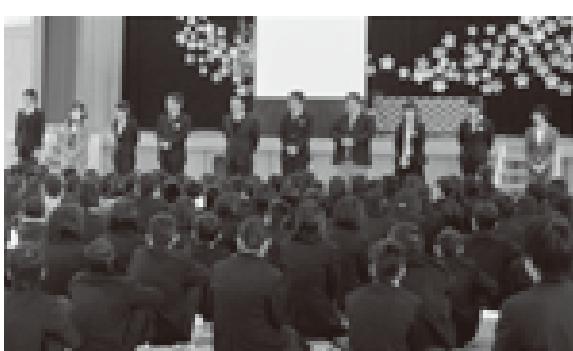
離任式



中学校卒業式



小学校卒業式



在任期間は、1年～6年間と、棚原町で過ごした期間はそれぞれ違いますが、児童生徒と過ごした学園での日々は、きっと忘れることがないと思います。ぜひ、新しい赴任校でも今まで同様のご活躍をお祈りしています。

平成26年の人事異動で棚原学園を去られる教職員の離任式が3月24日（月）に行われました。学園の在校生だけでなく、卒業生も参加して行われた式では、児童生徒会から、心を込めたお礼の言葉とともに、「笑顔でいよう」を全員で合唱し、お別れしました。

5月の行事予定

- 6日(火) 中学校修学旅行(9日まで)
- 7日(水) 7年生寮体験(9日まで)
8年生職業体験(13日まで)
- 10日(土) 環境整備ディ
- 11日(日) 四万十川総合水防演習
- 13日(火) 小児健診
- 14日(水) 第16回棚原町雲の上杯ゲートボール大会
小学校修学旅行(16日まで)

- 17日(土) 高吾地区中央支部体育大会(18日まで)
- 20日(火) 棚原町交通安全の日
狂犬病予防接種(拾い)
- 21日(水) 行政相談
- 25日(日) 西宮市・棚原町文化交流事業
- 30日(金) 小学3・4年生社会科見学



図書室だより

図書室 開室時間

午前8:30～午後8:00まで



4月は「こどもの読書月間」です。
ぜひ、この機会にたくさんの本に出会ってください。



第56回 標語「いつもいっしょ、本といっしょ」

4月 2日 「国際子どもの本の日」 4月23日 「子ども読書の日」

4月10日 「教科書の日」

4月23日～5月12日 「こどもの読書週間」

【こどもの読書週間】

子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、「こどもの読書週間」は1959年(昭和34年)に誕生しました。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、子どもたちにとってどんなに大切なことか……。子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。

今月の入荷図書

○一般書（一部紹介）



約束の海

山崎 豊子

戦争とは？日本人とは？構想三十年、壮大なスケールで描く最後の長編小説！「戦争の時代に生きた私の、『書かなければならない』という使命感が、私を突き動かすのです」(山崎氏)。
海上自衛隊潜水艦部隊の若き士官を襲う過酷な試練。その父は昭和十六年、真珠湾に出撃して——。時代に翻弄され、時代に抗う。父子百年の物語が、いま始まる。「この日本の海を、二度と戦場にしてはならぬ！」



怒り（上）

吉田 修一

殺人現場には、血文字「怒」が残されていた。事件から1年後の夏、物語は始まる。逃亡を続ける犯人・山神一也はどこにいるのか？



怒り（下）

房総半島、新宿、沖縄。3組の家族の前に前歴不詳の男が現れて……。衝撃のラストまで一気に読ませる、吉田修一の新たな代表作。

発足当初から活動され、東京で行われた贈呈式に参加された前川宣子さんは、「長年、東

京のメンバーや、保育園・幼稚園・小学校の他、みどりの家等、地域に根ざした読み聞かせボランティア活動をされています。

この助成事業は、伊藤忠記念財団が児童の読書についての啓発指導に関する民間の有益な活動目的達成のために行つており、今年度で第38回を迎えました。

絵本の小部屋は、平成14年に絵本の楽しさを知るきっかけを子ども達に届けてあげられたらという思いから活動が始まり、現在は町内在住8名のメンバーで、保育園・幼稚園・小学校の他、みどりの家

ふじの家やいきいきふれあい等、地域に根ざした読み聞かせボランティア活動をされています。

絵本の小部屋

が助成を受けました

絵本の小部屋 メンバー

- 前川 宣子 内田 千洋
- 中岡 幸恵 西村 美子
- 中越 光恵 阿部 恵
- 中越 郁子 石川 真帆



続けてきた地道な活動が実を結んだようで嬉しく思いました。これからも子どもの笑顔を原動力に、メンバー力を合わせて楽しい活動をしていく思います。大きな力を秘めている絵本を皆さんもぜひ手にとつてみませんか。』と話してくれました。

けんこうふれあいコーナー

内臓脂肪を貯めない

でも消費するエネルギーは変わってきます。

5月からは事業所健診、6月から町の総合健診が始まります。新年度になり、気持ちも新たにがんばろう！と思える今が生活習慣を見直すチャンスです！

メタボリックシンдро́м

放つておくとどうなる？

高血糖、高血圧、脂質異常それぞれの危険因子は一つだけでも動脈硬化を引き起こす危険性がありますが、内臓脂肪が蓄積すると互いに影響しあって、動脈硬化を進行させてしまします。その結果、脳卒中や心筋梗塞など、死につながる病気を発症させる危険性が高まります。

原因は？

食べすぎや運動不足からくる摺取エネルギーと消費エネルギーのバランスが崩れていることに加え、喫煙や生活リズムなどの不健康な生活習慣が大きな原因です。自覚症状があまりないものの、以前より体重が増加した、ウエストが太くなつた感じたら注意が必要です。

メタボリックシンдро́м 予防・改善には？

1に運動、2に食事、しつかり禁煙、最後にクスリ

メタボリックシンдро́мを予防・改善するためには生活習慣を改善して、内臓脂肪を減らすことが大切です。運動習慣、食生活を改善し、禁煙を心がけましょう。すでに治療が必要な方は医師の指導により、薬が必要となることもあります。

③ バランスのよい食事を、ゆっくり時間かけて食べる

よく噛まずに早食いするのは肥満のもと。よく、「一口三十回噛みましょう」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません、実は頸に良いだけでなく、脳の溝腹中枢（おなかがいっぱいになつた）という指令を出すところ）を刺激するので満腹感が得られます。一口三十四回は難しくても、今までよりもプラス五回噛む、若しくは口に入れたら箸を机に一度置くと食べ過ぎや早食いの改善ができます。

④ お酒や間食のとり方を工夫

まずは生活の中で運動の代わりに歩くことを。散歩や掃除、子どもと遊ぶ、洗車をするなど、少し意識をして体を動かしてみましょう。筋肉を意識するだけでも消費するエネルギーは変わってきます。

お菓子は食べるのでは、量を決めて食べる、見えるところに置かない、少し高価なものの大切に食べるなどの工夫を。『ダイエット』といつた過度の減量はかえつて痩せにくく身体になつたり、続かず反動で食べ過ぎたりしてしまいます。減量を目的とする場合は1ヶ月1kgを目標に、継続できる生活の改善をしましょう。



5月の保健福祉支援センター行事予定

4日(日)	歩こう会
8日(木)	越知面デイサービス友の会 松原サテライトデイサービス
9日(金)	四万川託老所 初瀬いきいきふれあい広場(高齢者合宿施設はつせ)

13日(火)	小児健診
16日(金)	東区いきいきふれあい広場
19日(月)	あゆみの会
30日(金)	四万川いきいきふれあい広場

※毎週月曜…●予防接種日：不活化ポリオ、三種混合、四種混合、麻疹・風疹、BCG、日本脳炎、子宮頸がん、ヒブ・小児肺炎球菌ワクチン
※毎週水曜…●陽だまり、育児サークル

※ゆすっ子相談センター相談日…12日(月)、20日(火)、27日(火)

文

芸

柚子の木俳句会

名門の蔵より古代雛飾る

鎌倉 安弘

せせらぎにあなたまかせの猫柳

広瀬 宗子

深梅や文字うすれたる道するべ

廣瀬 みえ

彼岸会や心の人は生き通し

佐竹 重子

職退の淋しさつのり椿咲く

西森 誠子

尋ね人知つていそうな猫柳

中平 忠雄

定年を迎える君におくる花

中越 緑

石雛を並べ商家の格子窓

中越 郁子

山峠の古老語りて春障子

渡辺 瑞枝

いにしえの津野氏の夢やねこやなぎ

西村由利子

新しき筧を走る春の水

西村 幸枝

文旦の香りを乗せて宅急便

氏原 陽子

雪解けや水琴窟の音澄みて

徳永 逸夫

春の野辺夫婦そろつて散歩道

山口 立野

瀬戸口登貴恵

杉の子俳句会

春光を今朝体感の速歩き

吉村 招山

川幅を狭める葦の芽ぐみかな

西村 蓉子

大欠伸猫の咽まで春日差す

久光 義恵

被災地の少女の語り春浅し

久岡 智子

春雷に一瞬息を止めにけり
復興の春告鳥や鉢の音
春光を今朝体感の速歩き
川幅を狭める葦の芽ぐみかな
大欠伸猫の咽まで春日差す
被災地の少女の語り春浅し

下元 廣幸

影浦 鉄心

千光寺昭子

岩元 芙美

古野 節子

芹を引く昔のことも引きにけり
海峡の汽笛は遠く月朧
おおぶりの蓬の餅や鄙の店
朧なり宮への橋も人影も

玄関に靴形のまま春の土
乳哺ませ猿は遠足見てをりぬ
千光寺昭子
乳哺ませ猿は遠足見てをりぬ
芹を引く昔のことも引きにけり
海峡の汽笛は遠く月朧
おおぶりの蓬の餅や鄙の店
朧なり宮への橋も人影も

寄付お礼

下元 康延様（愛知県名古屋市）
故・下元治男氏香典返しと
して社会福祉へ

下元 康延様（愛知県名古屋市）
故・下元治男氏香典返しと
して社会福祉へ

市川 定次様（大阪府門真市）
故・市川茂子氏香典返しと
して社会福祉へ

市川 定次様（大阪府門真市）
故・市川茂子氏香典返しと
して社会福祉へ

中越 久代様（永野）
故・中越秀満氏香典返しと
して社会福祉へ

中越 久代様（永野）
故・中越秀満氏香典返しと
して社会福祉へ

中越 久代様（永野）
故・中越秀満氏香典返しと
して社会福祉へ

中越 久代様（永野）
故・中越秀満氏香典返しと
して社会福祉へ

高校生へのお礼

高校生へのお礼

出生

住所	出生者氏名	性別	出生年月日	保護者氏名
飯母	森山 煌輔	男	H26.2.27	森山陽二郎

死亡

住所	死亡者氏名	性別	死亡年月日	年齢	世帯主
広野	中平 楠子	女	H26.3.5	87	本人
大向	下村 ふみ	女	H26.3.6	94	下村忠頼
広野	佐伯志津惠	女	H26.3.9	82	本人
六丁	下元 治男	男	H26.3.22	83	本人
富永	高橋 正一	男	H26.3.24	91	高橋友廣
田野々	沖田みと志	女	H26.3.26	87	沖田孝幸
南町	中越 春一	男	H26.3.29	90	中越好久

婚姻

住所	花婿・花嫁			婚姻日
横貝 栃木県佐野市	川室	上橋	秀稚	H26.3.24 人里



一年間という短い間でした
が、熱心に話を聞いていただき
おりました。私は自身も取材を通して、若
い人たち（高校生）と触れ合
うことで世の移り変わりを
勉強させていただきました。
「生きるその時代、その時代
ごとの良さ」を大切にしなけ
ればならないということが分
かりました。元気をいただきました。
ありがとうございました。

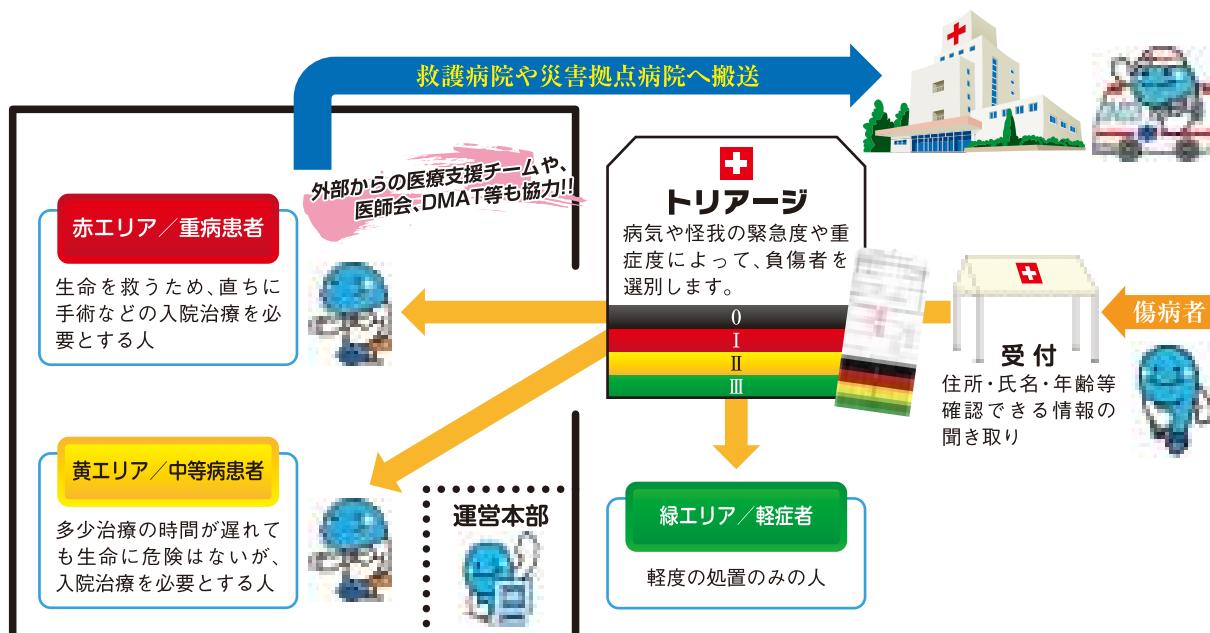
伊藤辰子さん

南海地震等が発生すると、多くの負傷者が避難所や病院・診療所にかけつけ、大変混乱することが予想されます。

災害時に、限られた人・物・時間の中で、一人でも多くの命を救うため、医療救護活動は次のように行います。

- ★参集された地域の医師や看護師等が病院やけがの緊急度や重症度によって負傷者を振り分けます。(「トリアージ」といいます。)
- ★医師は、命を救うため重症患者の処置を優先に行い、手術や入院治療が必要な患者は、搬送順位を決め救護病院等へ搬送します。
- ★救護病院での受入れが困難な場合は災害拠点病院へ搬送し、必要に応じて、管外や県外の病院にへり搬送します。

医療救護所 つて、どんなところ?



避難時は、少なくとも3日分のおくすりを携帯しましょう

災害時には、道路事情や医療機関・薬局の被災により、くすりが手に入りにくくなります。

おくすり手帳・おくすりメモは日ごろから携帯しましょう

急に具合が悪くなって主治医以外の先生にかかる場合、おくすり手帳等があればスムーズにくすりがもらえます。

高知県災害医療対策高幡支部会議（事務局 須崎福祉保健所）

春を感じる代表的なものの一つに桜の花が挙げられます。冬の寒さに耐え抜き、咲き誇った後、力強い新緑へと姿を変えるのは、状況に応じて精一杯生きる大きさを教えてくれています。4月は、新しい出会いと新しい夢や目標を立てる節目であります。

4月号では、将来を見据えた町づくりのための事業計画や予算が示されています。人それぞれ課題や目標は異なりますが、各個人が考えて、夢のある住み良い樅原町にしたいものです。

4月は、新しい出会いと新しい夢や目標を立てる節目であります。

4月号では、将来を見据えた町づくりのための事業計画や予算が示されています。人それぞれ課題や目標は異なりますが、各個人が考えて、夢のある住み良い樅原町にしたい möchten.